

That's きつとす 令和元年6月

鮮やかに咲くツユクサの生存戦略

6月、徐々に森の緑は濃くなり、夏へと移り変わっていきます。天覧山・多峯主山の山道沿いにはコアジサイやウツギの仲間が咲き始めます。夏の季節には、白色の花が多く咲きますが、その中で鮮やかな青色でひと際目立つ小さな花があります。それがツユクサです。

ツユクサは、高さ30~50cmほどで、山道や道ばたでよく咲いています。花の青い汁は、友禅染の下絵を描くのに使われていて、水で洗うと脱色します。そして、花は一日しか咲きません。そのため、短時間で次世代を残していく必要がありますから、戦略家の一面を持ち合わせています。

昆虫に花粉を効率良く運んでもらうために、ツユクサは飾り雄しべをつけます。飾り雄しべは、ほとんど花粉をつけません、黄色く目立ち、花粉がたくさんあるように見えるので、昆虫を引き寄せるのに役立ちます。受粉に必要な花粉を持つ雄しべは、白くてひょろりと長いものです。昆虫が飾り雄しべに近づくと、花粉を持つ雄しべが昆虫のお腹に当たり、花粉を運んでもらうことができます。また、ツユクサはしぼむ頃になると、自分の雄しべをくるくると巻き寄せて自分の雌しべと受粉することもあります。

身近な小さな植物にも、隠れたドラマがあるのですね。(長谷川)

